

(ミ)がかかれたという、あの天の岩戸がある。それを困った神々が相談したという天の安原(アモノヤスハラ)の洞穴があり、原生林の中に見えがくれする深淵、急流、瀑布の続く溪谷は、そのまま神話の世界である。

洞穴の中にはいと、周囲には大小さまざまな岩を積み重ねてあって、足のふみどころもない。石

私たちは雨の中、傘をさして山路を歩き、神代のころをしのぶ。雨もまた、ここでは風情がある。山水の冷たいこと。境内に、サカキの巨木がある。このサカキの枝をもつて、神代の昔、アメノウズメノミコトが舞いをまつたのが今日高千穂神楽として残っているのだとか。

けわしい山々に囲まれた谷間の

いう木型、図面、クワ、糸車、検尺などを見たが、偉大な先人たちに對して新たに敬愛の念をおぼえた。私たちは通潤橋の上に立つて一人のためでなく、万人の幸福のためにと力を出し合った農民たちの気組みをしみじみ思った。それは、尊い教訓でもあった。

こうして、私たちのクルマ旅行は終わったのだった。